

# 国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【読むこと】	イ【書くこと】
【読むこと】 叙述に基づいて、どのような内容が書かれているかを把握することができる。	（言葉の特徴や使い方） 語句と語句との関係や語句の意味、使い方を理解する力を育てる。

学年	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙の習得が十分でなく、読み取りが十分でないところがある。ア</li> <li>・「は」「を」「へ」などの助詞を文章に正しく使うことの定着が確実にされていない。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉集めをしたり、読書に親しむ時間を確保したりすることで、語彙を増やす。ア</li> <li>・助詞に限らず、正しい語句の使い方を知るために、文章を書く機会を多くする。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が増えてきたことで、文章の意味を理解しながら読むことができるようになってきた。</li> <li>・文章を書く機会が増えたことで、助詞の使い方など正しい語句を用いて表現することができるようになってきた。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述に基づいて、人物の心情を想像したり読み取ったりすることは概ねできるが、読み取りを文章化することが難しい。ア</li> <li>・必要な情報が抜けた文章になるときもあり、主語が抜ける文章を書くことも多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書感想文を書く機会を増やす。ア</li> <li>・型に沿った文章の書き方を示しながら、学習した漢字を短文で表したり、日記を書いたりする経験を多く積ませる。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の読み取りや読書の機会では、率先して自分の意見を文章化することに努めた。</li> <li>・「初め→中→終わり」の文章の組み立てについて概要を捉え、感想文や説明文など様々な型の文章を作成しながら文章構成について基本的な理解を深めた。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の心情、様子などを読み取ることは概ねできるが、その内容を表出したり、自分の言葉でまとめたりすることが難しい。ア</li> <li>・語句の意味や使い方が分からない言葉が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語単元では、登場人物の心情を表す叙述に線を引くなど本文から読み取る活動を取り入れ、場面による心情の変化を整理させる。ア</li> <li>・日常より国語辞典や漢字辞典を身近に置き、自身で調べさせることを大切にする。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が増えてきたことで、文章の内容や登場人物の様子、心情の変化などをまとめることができるようになってきた。</li> <li>・辞典やタブレット端末を正しく使うことで調べる習慣が付きつつあり、語句の理解も深まってきた。</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の心情を読み取り、表現することはできるが、多面的・多角的な視点から考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語単元では、個人での読み取り後、グループや学級での話し合い活動を十分に行う。ア</li> </ul>	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を想像し、ノート</li> </ul>

	<p>ができない。ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方で分からない言葉が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や慣用句などを身に付けていくために、ドリルや練習帳と国語辞典や漢字辞典の活用を充実させる。イ</li> </ul>	通年	<p>に記録する活動を多く取り入れたことにより、少しずつ表現力は付いてきたが、今後も学習を重ねていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新出の漢字や言葉も学習を積み重ねていくことが必要である。</li> </ul>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>叙述から登場人物の心情を読み取ることは概ねできるが、その変化や細かな表現に着目することは難しい。ア</li> <li>語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方で分からない言葉が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心人物の心情や、その変化を読み取る活動（心情曲線等）や、文章を要約する活動を多く取り入れる。ア</li> <li>国語辞典を多く活用し、語句の知識や使い方を学習する習慣をつける。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情や思いを表す言葉や文章に着目することで、心情の起伏や変化の読み取る力が身に付いてきた。</li> <li>語句や意味を自ら調べる活動が習慣化してきた。その知識も徐々にではあるが高まってきている。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な人物の相互関係や心情、出来事などについて叙述を基に捉えることはできているが、文章全体の構成を捉えて全体像や要旨を把握することを苦手としている。ア</li> <li>語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方で分からない言葉が多い。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉え、何が書かれているのかだけでなく、どのように描かれているのかを問う発問を多くし、イメージを共有する活動を増やす。ア</li> <li>国語辞典を多く活用し、語句の知識や使い方を学習する習慣をつける。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体をとらえるような活動や発問をしたことで、全体像を想像することができるようになった。キーワードに注目して文章を要約することができるようになった。</li> <li>分からない語句は辞書で調べることが多く取り入れ、日常の中でも辞書を使おうとする児童が増えた。</li> </ul>

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 タブレット端末を活用して友達の考えを共有することで、自分とは違う考え方があることに気付く。
- 2年 作文の際、「はじめ」「中」「おわり」の構成を考えるときに、組み立てメモとしてタブレット端末を活用していく。
- 3年 タブレット端末のアプリで、文章の構成や内容の推敲をする際のツールとして活用する。
- 4年 自分や友達の考えを共有したり、熟語や漢字を調べたりする際にタブレット端末を活用する。
- 5年 タブレット端末を使って、ペア・グループで読み取った内容を伝え合ったり、多面的・多角的な考えに触れたりして、自分の考えを広げる。
- 6年 タブレット端末を使って、ペアやグループで読み取った内容を伝え合ったり、多面的・多角的な考えに触れたりして、自分の考えを広げる。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 めあてを振り返るとともに、次時の学習への見通しをもつ。
- 2年 毎時間、めあてを振り返ることや、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。
- 3年 めあてを振り返るとともに、次時の学習への見通しをもつ。
- 4年 めあてを振り返るとともに、次時の学習への見通しをもつ。
- 5年 めあてを振り返るとともに、次時の学習への見通しをもつ。
- 6年 めあてを振り返るとともに、次時の学習への見通しをもつ。

# 算数科

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【数学的な思考力・判断力・表現力】	イ【数量や図形についての知識及び技能】
根拠を基にしながら筋道を立てて考える力を身に付けさせる。	計算や作図などの手順を理解し、正しく処理できる力を身に付ける。

学年	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を読み、演算決定が難しい児童がいる。ア</li> <li>学習内容が確実に定着していない児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文で問われていることを問題文に線を引くなどして確認する。ア</li> <li>学習内容が定着するように、プリントやドリル、タブレット等を活用し、既習事項の復習を繰り返し実施する。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題で問われていることを確認する習慣をつけたことで、自力で解決することができるようになってきた。</li> <li>計算は反復することで定着してきた。時計の読み方など単元の短いものについては、授業とは別に習熟の時間の確保に、取り組んでいく。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>図や式、記号、言葉などを適切に用いて自分の考えや学習したことなどを表現できる児童が少ない。ア</li> <li>既習事項の定着が十分でない児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現するときの基礎・基本となる「型」を示し、活用する場を多く設ける。ア</li> <li>朝学習や家庭学習を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、日常生活の中で他教科の中でも話題に出すなど既習事項を意識させるようにする。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題把握→自力解決→考えの交流→まとめ→習熟」の学習過程を発達段階に応じた形で導入し、問題解決学習の基礎を固め、思考力や表現力を高めた。</li> <li>九九の習熟や桁の多い計算等に定着に差が見られる。指導方法や習熟の時間の確保など考慮して取り組んでいく。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文や図、表などであらわせない児童がいる。ア</li> <li>既習事項の理解が確実に定着していない児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決学習ができる内容を精選し、一つの単元において、数回は図や表などを活用して思考させる授業を実施する。ア</li> <li>単元終了後も、プリントやドリル、ミライシート等を活用し、既習事項の復習を行い、学習内容の理解の定着を図り、技能を伸ばす。イ</li> </ul>	通年  朝学習や単元の習熟の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや方法を図や表で表せる児童が増えた。今後は、どの方法を使うかの臨機応変な選択ができるようにさせたい。</li> <li>かけ算の筆算など定着に差が見られるものがある。習熟の時間を確保するなど考慮して取り組んでいく。</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の意味が理解できず、立式できないことがある。ア</li> <li>除法、乗法の計算技能に課題がある児童がい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題に下線を引いたり、図や絵を用いたりすることを指導する。ア</li> <li>既習の基本的な計算を基に考えさせ、繰り返</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で、子供の習熟度に合わせて左記のことに取り組んだことにより、</li> </ul>

	る。イ	し問題に取り組み、学習内容の定着を図る。 イ		力は伸びてきているが、今後も同様の学習を進めていくことが必要。 ・繰り返し問題に取り組む児童と、取り組めない児童との差が大きくなっている。習熟の時間を学校（授業外）でも多く確保できるとよい。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく情報を読み取り、根拠を基にしながら筋道を立てて考えることに課題がある。ア</li> <li>基本的な計算問題や作図問題の定着に課題がある児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文から分かることに線を引いたり、図や数直線に表して立式したりする習慣を身に付けられるようにする。ア</li> <li>朝学習や家庭学習でミライシードやドリル等を活用し、基礎・基本の定着を図る。イ</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の読み取りや整理には、まだ課題は残るが、既習事項から根拠を導こうとする姿勢は育ってきた。</li> <li>習熟を図る中で、力は付いてきたが、まだ個人差が大きい。引き続き指導していく。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>立式したり、答えを求めたりすることができていても、その根拠を説明したり表現したりすることが苦手である。ア</li> <li>基本的な計算問題や作図問題の定着が十分でない児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立式だけでなく、その根拠を言葉や図、数直線等で表す機会を設ける。ア</li> <li>朝学習や家庭学習、習熟の時間を活用して、基礎・基本の定着を図る。イ</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で、子供の習熟度に合わせて左記のことに取り組んだことにより、力は伸びてきているが、今後も同様の学習を進めていくことが必要。</li> <li>繰り返し問題に取り組む児童と、取り組めない児童との差が大きくなっている。習熟の時間を学校（授業外）でも多く確保できるとよい。</li> </ul>

<p><b>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</b></p> <p>1年 タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。</p> <p>2年 タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。</p> <p>3年 タブレット端末を活用して、自分の考えをまとめたり、発表したりして学びを深める。</p> <p>4年 タブレット端末を活用して、自分の考えを整理したり、説明し合ったりして学びを深める。</p> <p>5年 タブレット端末を使って自分の考えを説明し合ったり、全体で共有しながら発表させたりする。</p> <p>6年 自分の考えを小集団や全体で説明させるだけでなく、友達の考えを説明する活動も取り入れる。</p>	<p><b>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</b></p> <p>1年 毎時間、めあてを振り返ることや、日常生活の中で、学びを生かす機会を意図的に設ける。</p> <p>2年 毎時間、めあてを振り返ることや、日常生活の中で、学びを生かす機会を意図的に設ける。</p> <p>3年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で単元末に学習の理解の定着を図る。</p> <p>4年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で単元末に学習の理解の定着を図る。</p> <p>5年 めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。</p> <p>6年 めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。</p>
---	---



# 理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span> 【思考力、判断力、表現力等】	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span> 【科学的事象への学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 比較、関連、条件制御、推論を中心に実験・観察を行い、結果から結論を導き出す問題解決能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連光寺の身近な自然に関心をもち、自然事象と知識を結びつけながら主体的に学習する態度を育てる。</li> <li>• 科学的事象に関心をもち、「新たな疑問（問い）」や「新たな気付き」を多くもてる心情を育てる。</li> </ul>

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然事象に接し、観察する力がついてきたが、その中から問題を見いだすまでには至っていない。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 実験、観察をして理解したことを知識に結び付けるまでには至っていない。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然に多く触れ、二つ以上の対象物を比べ、共通点や相違点を見出しながら観察できるように指導していく。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 自分たちの生活の中の事象と既習の知識とを意識して結びつけながら学習に取り組めるよう単元末には発展的な学習を取り入れる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象物の共通点や相違点から「～だろうか」と文章で表現できる子が増えた。視点を与えながら今後も指導していく。</li> <li>• 考察の際、結果を基に自分の考えを書ける子が増えた。知識を他教科などにも生かせるよう今後も指導していく。</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予想や仮説に根拠を発想できない、述べられない児童が目立つ。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 自分の考えを発言し、意欲もって取り組むことができるが、既習内容や生活経験を関係付けて事象を説明できないことがある。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 十分な時間の確保や、既習事項や日常経験に結び付けられるよう、単元の始めに既習事項の復習を行う。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 物事の事象と用語が結び付くように、結論や考察が行えるようペア・グループ学習など説明する時間を設定する説明する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既習事項や生活体験を基に予想をさせ、問題解決型の学習を進めることにより、自分なりの考察を行い、説明できる児童が増えてきた。</li> </ul>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習意欲は高いが、因果関係を捉えたり、関連性に気付いたりする力が弱い。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ICT機器を活用し、データや表・グラフなどを用いて比較したり類似点を探したりさせる。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> </ul>	各単元の導入と終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値や実験データなど、科学的な根拠を基に考えようとする姿勢が身に付いてきた。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 考察する場面において、何を書いているのかわからなかったり、どのように考えているのかわからなかったりする。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 知識と実生活が結び付かず、十分に活用できないことが多い。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 考察の書き方を繰り返し指導する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 結果を多面的・多角的に考えることができるよう考察した内容を児童同士で交流できるようにする。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span></li> <li>• 学習した内容を生かして実験を行い、実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と関連付けて考えさせる機会を増やす。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span></li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 考察の書き方を繰り返し指導することで結果と考察の違いを理解しながら考えを深めることができた。</li> <li>• 実生活との結びつきについて考える時間を設けたことで少しずつ学習した内容と生活を結び付けられるようになってきた。</li> </ul>

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年 観察カードやポートフォリオとして、振り返りや継続的な記録として学習に生かす。
- 4年 実験の結果や観察の記録をまとめたり、考察や発表を行ったりする場面でタブレット端末を活用する。
- 5年 学習課題について調べた事柄や情報をまとめる活動を行う。
- 6年 結果から考察する場面において、児童同士の交流を多く行い、考えが深まるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年 時系列や実生活との結びつきを意識させながら学習に取り組みさせていく。
- 4年 振り返りを行い、日常生活への適用を考えたり、今後の学習への意欲を高めたりする。
- 5年 単元の始めと終わりでの自分の考えや知識の変容の確認する。
- 6年 本時で学んだことや、疑問に思ったことを実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と結び付けるようにしていく。



	が苦手な児童がいる。 <input checked="" type="checkbox"/>	に相手に分かりやすく伝えたりする学習活動を繰り返し行う。 <input checked="" type="checkbox"/>		ってきた。今後も資料を数多く使用しながら読み取る力をつけていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを根拠を基にしてもつことはできるようにはなっているが、分かったことや考えを整理してまとめる力には課題が残る。引き続き、自分の言葉でまとめる活動を数多く取り入れていく。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計や年表などの資料から、必要な情報を適切に読み取って、まとめることが苦手な児童がいる。 <input checked="" type="checkbox"/></li> <li>歴史上の出来事や様々な伝統文化に対して難しさを感じ、調べることに意欲をもつことができない児童がいる。 <input checked="" type="checkbox"/></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計や年表、地図帳などの基礎的な資料に触れる機会を多く設定し、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、話し合い活動や交流活動を通して、考えをまとめる活動を繰り返し取り入れる。 <input checked="" type="checkbox"/></li> <li>児童が興味や関心をもつことができるような資料を用意したり、具体物の複製を提示したりし、児童の学習意欲を高められるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/></li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとにして、当時の人物の生活や考え方を想像したり、時代背景を考えてまとめたりすることができるようになった。話し合い活動や交流活動で他の人の考えを聞き、考えることができた。</li> <li>デジタル教科書の写真、映像を随時活用することにより、意欲向上や知識理解につながった。</li> </ul>

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年 写真や動画などの課題に沿った資料配布を効果的に行い、児童が資料を活用して学びを深めることができるようにする。
- 4年 学習に必要な資料を適切に選ぶ力や、情報を読み取る力を高めるためにタブレット端末を活用する。
- 5年 社会的事象の特色や意味について、考えをペアやグループなどでタブレット端末を使用し、共有する活動を増やす。
- 6年 社会的事象の特色や意味について、話し合い活動やタブレット端末を使った交流活動を通して、多面的・多角的に捉える。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年 毎時間、めあてを振り返ることや、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。
- 4年 めあてに対する振り返りの時間を取り、次回への意欲を高める。
- 5年 めあてに対する振り返りの時間を取り、次回への意欲を高める。
- 6年 振り返りを行い自己理解を深め、次の学習への意欲をもたせる。



# 生活科

生活科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 【思考・判断・表現の基礎】	イ 【学びに向かう力・人間性等】
具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力を育てる。	具体的な活動や体験を通して児童が思いや願いに基づいて、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとする態度を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 伝えたいことはあるが、伝え方の方法は、まだ十分に知らない。ア</li> <li>• 楽しく活動できているが、友達との関わりは浅く、互いに協力したり助け合ったりする意識はまだない。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 伝え方の方法は様々あることを知り、それを実践できる機会を増やす。ア</li> <li>• 活動の中で友達と関わる時間を設け、協力したり助け合ったりできるようにする。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まとめる方法や発表の方法については既存の体験が少ないため、こちらからの提示を多く行った。児童は様々な方法があることが分かって取り組むことができた。</li> <li>• グループ活動の経験の少なさが、アイデアの少なさになっていたため、多様な経験ができるようになってきた。このことは、追究への意欲につながった。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 効果的な伝え方を選ぶ力や、表現する力が十分でない。ア</li> <li>• 自分のしたいことの見通しをもったり、計画したりすることが難しく、互いに協力したり助け合ったりする意識には至っていない。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵や作文の他に、動作や劇、タブレット端末を用いたプレゼンテーションなどの表現方法を知り、自分たちの伝えたいことに合った表現方法を選んで練習をする機会を設ける。ア</li> <li>• 友達と話し合いをしたり、クラスで活動したりする際に、生活科で経験したことを生かせるように声掛けをする。イ</li> </ul>	通年  通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人一台のタブレット端末を生かすことで調査活動や、意見交流、ポートフォリオ作成などにおいて児童の様々な可能性が広がった。</li> <li>• タブレット端末を用いて経験した思考ツールや意見交流の方法を、他教科に生かすなど、横断的な学習を進めている。</li> </ul>

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。
- 2年 自らの発見を写真に撮ることで、友達に伝えようとする意識を高め、対話的に学びを深めることができるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 ポートフォリオを適宜活用し、見通しをもって活動できるようにする。
- 2年 めあての振り返りを行い、活動内容を全体で共有する。